

コロナ禍を経た再会レポート

民泊家庭と宿泊した兄弟の絆

民泊受入家庭の川本さんは、体験型修学旅行（民泊）の受入の他、簡易宿泊所「体験民泊コンベイ（convey）」も営んでいます。

今年7月下旬に訪れた関西学院初等部を本市が受け入れたのは、これで3回目となります。5年前に兄の増田理人（りひと）さんがお世話になった川本さん宅に、今度は妹の理乃（りのん）さんも民泊をすることとなり、兄から話を聞いていた理乃さんは、大変楽しみにしていたとのことでした。

受入期間中も、「お兄ちゃんと同じ家庭に泊まれた」と嬉しそうに話す姿が印象的でした。

先日、川本さんから「兄弟とご両親が家族揃って宿泊予約された」と事務局に連絡がありましたので、早速お話を聞かせていただきました。増田さんのお二人に民泊を終えてからの様子をお伺いしますと、「江田島市の自然の中で、普段はできない体験を通してとても興奮し喜んでいました。今度は家族と一緒に体験したいと思い、今回の旅行を計画した」「お世話になった民泊家庭の方に会って直接お礼も言いたかった」とおっしゃっていました。受入家庭の川本さんも今回のご縁を大切に思っていたいただき、家族で再訪していただいたことに、感銘を受けていらっ



体験民泊コンベイ外観



川本さんご夫婦(前列中央)と増田ご一家

10年続く交流

10年前に民泊で本市を訪れた、東京都立練馬高校の卒業生、太田美佳さん（27）と、民泊受入家庭の武田るりさんのお話です。

お二人は、10年前の民泊で出会って以来交流が続いているとのこと、今回で3度目の来訪でした。お話の中で、当時、江田島市が修学旅行先となったのは、太田さんが旅行委員長をしていたことも関係したと教えてもらえました。

当時を振り返り、船釣りやミカン狩



武田さん(中央)と太田さんたち

りをしたこと、一緒に調理したこと、冬でも虫が出たので蚊帳を吊って寝たことなどを懐かしそうに談笑されていました。太田さんは、武田さんを親のように慕っている様子で、前回の訪問時は一緒に民泊でお世話になった友人と、そして今回は、お付き合いしている男性と来訪し、武田さんに紹介しました。次回訪問の話題も既に出ていましたので、末永いご縁が続いていくことに期待が持てました。

〜あとがき〜

今回、記念すべき第100回の民泊通信でこうした好事例をご紹介できることは、大変光栄です。これも、民泊受入家庭の皆さまだけでなく、受入事業を支援していただける地域の皆さまのご理解とご協力の賜物と深く感謝しております。江田島市が今後も地域を活性化していくためには、魅力を発信し、人を呼び込み、新たなご縁を結び付けることで、何度でも訪れたいと思ってももらえるよう努力を続けていく必要があると考えております。まずは、皆さんも一緒に感動体験を味わってください。民泊の受入からスタートし、次のステップとして簡易宿所として宿泊事業に挑戦することもできます（事業化にチャレンジする際には、一定の要件を満たせば施設整備等の支援が可能）

民泊の受入に関心のある方は、お気軽に交流観光課までお問い合わせください。

「広報えたじま」は、ホームページでご覧になれます。

広報えたじま



広報えたじま 第228号（毎月1日発行）
発行／江田島市 編集／江田島市企画部企画振興課
〒737-2297 広島県江田島市大柿町大原505番地
☎0823(43) 1630・FAX0823(57) 4433

江田島市公式LINE
質問に答え、受信設定すれば
詳しい情報をお届け！
@etajimacity